

I はじめに

新潟県農業総合研究所は、新潟県総合計画の実現に向け、生産現場における問題や課題の解決を図るため、農業及び食品分野の試験研究に関し、次の4つの柱を立てて研究開発を推進することとしています。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 本県農林水産業の飛躍につながる研究開発の推進
(新潟県農林水産業試験研究強化プラン)2 県産農産物の競争力強化を実現する戦略的な研究開発3 生産現場が抱える課題を解決する研究開発4 持続可能な農業の構築に向けた革新的な研究開発 |
|--|

農業総合研究所は、本計画の実現に向けて共通基盤部門と作物・園芸・畜産・食品・中山間地域農業の各研究センター及び佐渡農業技術センターが一体となり、研究開発に取り組めます。

II 中長期に取り組む研究テーマ

1 本県農林水産業の飛躍につながる研究開発（農林水産業試験研究強化プラン）

(1) 気候適応生産技術研究プロジェクト

地球温暖化の進行に対応するため、遺伝子情報^(※)を用いた水稻の生育診断や品種選抜、高温耐性を持つ優良家畜の育成などの技術開発を進めます。

^(※) 高温に対するストレス耐性などの有用な形質が評価できる遺伝子配列や遺伝子発現の情報

(2) スマート農業システム実装化プロジェクト

AIを活用した水稻生育予測システムやICT、ドローン、人工衛星を活用した水稻モニタリング技術の開発など、栽培や肥育管理を最適化する技術の開発を進めます。

(3) 新たな園芸ブランド品目開発プロジェクト

新たな新潟ブランド品目の育成に向けて、インパクトがあり消費者・生産者双方に喜ばれる園芸品目の開発を進めます。

(4) フードテック価値創出プロジェクト

新潟独自のフードテック産業を集積し、県内食品産業の競争力を強化するため、高品質なグルテンフリー食品の製造技術や、新たな収益につながるアップサイクル技術の開発を進めます。

2 県産農産物の競争力強化を実現する戦略的な研究開発

(1) 気候変動に対応し、生産者所得の最大化に寄与する水稻の品種開発

高温、乾燥条件下でも品質への影響が小さい高温耐性コシヒカリ BLに加え、高温耐性を有する酒米の品種開発に取り組めます。

(2) 水田フル活用と米の消費拡大に向けた技術の開発

生産者所得の最大化に向けて、直播きなどの低コスト栽培技術や大豆・麦の安定生産技術の開発を進めます。

(3) 水田を活用した大規模園芸産地育成を支援する技術の開発

稲作主体の農業者・法人における園芸品目の拡大に向けて、重粘土質の水田転換畑において、速やかに畑地化を実現できる土壌改良技術の開発を進めます。

3 持続可能な農業の構築に向けた革新的な研究開発

(1) カーボンニュートラルの実現に貢献する技術の開発

脱炭素社会への転換や農業の持続的な発展に向け、農地への炭素貯留や温室効果ガスの排出抑制のほか、J-クレジット活用につながる研究開発を進めます。

(2) 環境と調和した安全・安心な農畜産物を提供する技術の開発

農業生産活動による自然環境への負荷軽減を図るため、化学肥料・化学合成農薬を低減した栽培など、環境と調和した持続可能な農業生産技術の開発を進めます。

Ⅲ 速やかな解決を目指す研究テーマ

1 生産現場が抱える課題を解決する研究開発

(1) 競争力のある園芸産地育成に向けた生産技術の開発

既存産地の活性化に向けて収量・品質向上技術、稲作経営体への園芸導入支援技術、及び担い手確保に向けた省力化技術の開発を進めます。

(2) 高品質畜産物の生産性向上及びコスト低減技術の開発

収益性の高い畜産経営の育成に向けて、「にいがた和牛」の肥育期間を短縮させる飼養技術及び自給飼料の生産性向上技術の開発を進めます。

(3) 地域の特徴を活かした栽培技術の開発

中山間地域農業の活性化に向けて、地域の地理的条件や気象条件などを活かした地域特産品目の開発や省力化技術の開発を進めます

2 中山間地域の維持・発展に資する調査・研究

農業を核に多様な人材が活躍できる地域づくりの取り組みや、鳥獣被害の軽減・防止に寄与する調査・研究を進めます。

Ⅳ 令和8年度の農業総合研究所の重点研究

農業総合研究所は、次の4項目を喫緊の技術的課題に位置づけ、令和8年度の重点研究として取り組みます。

- 1 高温耐性新品種（コシヒカリ BL、酒米）の開発
- 2 異常気象に対応した新潟米の安定生産技術開発
- 3 インパクトのある新たな園芸品目の開発
- 4 フードテックによる食品素材の製造技術開発とアップサイクル

V 令和8年度試験研究課題一覧

1 新潟県農林水産業試験研究強化プラン

No	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
1	フードテック価値創出プロジェクト	強化P	食研	R8-10	食研	50,210	新潟独自のフードテック産業を集積して県内食品産業の競争力を強化するため、新たなフードテック技術を開発し様々な課題への対応と新たな価値創出を促進する。 ・米の用途を拡大する新しい素材開発 ・アップサイクル技術 ・おいしさを可視化するデータ解析
2	新たな園芸ブランド品目開発プロジェクト	強化P	園研	R8-10	園研	7,220	新しい新潟ブランドになる品目として、インパクトがあり消費者・生産者双方に喜ばれる新品種を開発し、産地を活性化する。
3	スマート農業システム実装化プロジェクト	強化P	—	R8-10	基盤 バイオ 作研 園研 畜研	2,523 975 2,940 900 1,350	様々な生育データ等を用いた生育予測・診断システムを開発し、栽培管理の最適化を実現する。 ・水稻のリモートセンシング ・異常高温に対応した栽培技術 ・乳牛のエネルギーバランス低下防止
4	気候適応生産技術研究プロジェクト	強化P	—	R8-10	バイオ 作研 畜研 佐渡	6,662 3,298 1,205 900	地球温暖化に対応できる新品種の開発や新たな栽培品目を選定することで、安定した品質・収量を確保する。 ・培養技術による育種の加速 ・大型施設利用型育種の代替法 ・新たな特産品の栽培技術の確立
5	おいしく食べて健康になる米品種等の開発	経常	作研	R8	作研 バイオ	12,000 2,000	低GIや高アミロースなどの機能性新形質米の開発を進めるとともに、流通・加工場面で重要な「胴割粒」に関係する遺伝子を特定する。
6	機能性を活かした食品開発	経常	食研	R8	食研	300	低たん白処理による米飯の加工技術を開発する。 発酵技術を活用した新しい食品を開発する。
7	大規模経営の最適化に向けた現地試験研究	経常	作研	R8	作研	300	300ha超の大規模経営体において、「なつひめ」導入の作業分散効果を検証し、適した全量基肥肥料も併せて検討する。

2 県産農産物の競争力強化を実現する戦略的な研究開発

（１）気象変動に対応し、生産者所得の最大化に寄与する水稻及び園芸品目の品種開発

No	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
8	高温耐性コシヒカリBLの開発〔前期〕	事業 (農総)	作研	R5-9	作研 バイオ	7,545 11,455	遺伝子マーカー選抜技術及び世代促進技術の開発により、高温耐性コシヒカリBLの候補系統群を開発する。
9	高温耐性酒米開発事業	事業 (農総)	作研	R7-11	作研 バイオ	2,800 1,500	既存品種を基に、高温耐性に優れ、酒米特性が安定した新品種を開発するとともに、系統選抜に有益なDNAマーカーを開発する。
10	水稻の基幹品種の育成	経常	作研	H9-	作研	8,779	生産者及び消費者のさまざまなニーズに対応できる水稻優良品種を開発する。
11	新潟オリジナル園芸品種の開発と種苗の安定供給技術の確立	経常	園研	R1-10	園研	1,736	県内外の需要に応えられ、園芸生産の拡大に寄与するオリジナル品種を開発するとともに、健全な種苗の安定供給技術を確立する。
12	北陸の重粘土水田地帯に向けた汎用的に利用可能な軟質小麦の開発	外部 (その他)	作研	R6-10	作研 食研	2,000 1,200	北陸の重粘土地域でも安定的に栽培できる軟質小麦品種を選定するとともに小麦粉の製菓・製麺特性を評価する。
2	新たな園芸ブランド品目開発プロジェクト	強化P	園研	R8-10	園研	7,220	1を参照
4	気候適応生産技術研究プロジェクト	強化P	—	R8-10	バイオ 作研 畜研 佐渡	6,662 3,298 1,205 900	1を参照

（２）水田フル活用と米の消費拡大に向けた技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
13 水田の収益力強化に向けた農地有効利用技術開発	経常	作研	R7-9	作研	857	水田ほ場かつ異常気象下での麦・大豆・そば等の畑作物の高位安定生産方法の確立と省力化及び環境負荷軽減につながる栽培技術を検討する。
14 ダイズ黒根腐病抵抗性を強化した品種の開発	外部 (イノベ)	作研	R4-8	作研	3,000	県奨励品種「里のほほえみ」等に黒根腐病抵抗性を付与した系統について、その抵抗性を評価する。黒根腐病抵抗性検定法を開発する。
15 いつでも直播：春の作業ピークを平準化できる革新的稲作技術	外部 (イノベ)	作研	R6-10	作研	1,000	稲作における春の作業ピークを平準化できる初冬直播や早春直播による「いつでも直播」の技術を開発する。
16 稲民間育成品種の評価試験	外部 (その他)	作研	R5-	作研	1,056	民間育成の水稲品種・系統について、主要農業特性を調査して有望度を評価する。
17 水稻初冬直播栽培の導入拡大技術の確立	外部 (その他)	作研	R6-8	作研	2,922	初冬直播きの北陸積雪地帯への導入に向けて、県内主要品種を用いた出芽特性の把握、及び生育診断に基づく窒素施肥法を確立する。

（３）水田を活用した大規模園芸産地育成を支援する技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
18 重粘土水田における畑地化技術の確立	21世紀型 (現場課題)	基盤	R7-9	基盤 作研	1,700 450	重粘土質の水田転換畑において、すみやかに畑地化を実現できる土壌改良技術を確立するとともに、収益性に優れた園芸品目の作付体系を提案する。

（４）バイオテクノロジーを活用した生産性及び品質向上等革新的技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
1 高温耐性コシヒカリBLの開発〔前期〕	事業 (農総)	作研	R5-9	作研 バイオ	7,545 11,455	2(1)を参照
9 高温耐性西米開発事業	事業 (農総)	作研	R7-11	作研 バイオ	2,800 1,500	2(1)を参照
19 バイオ技術を用いた県産農産物の品質安定化支援技術の開発	経常	バイオ	R8-10	バイオ	490	培養技術や生体分子解析を活用し、農作物の品質低下要因の解明や対策技術開発を行う。

3 生産現場が抱える課題を解決する研究開発

（１）異常気象に対応した収量・品質・食味の安定生産技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
20 持続可能な農業経営を支える新潟県主要作物の高度生産システムの開発	経常	作研	R7-9	作研	1,455	持続可能な農業経営を推進するため、変動気象条件下における主要作物の品種および栽培の特性を把握し、効率的な生産手法を確立する。

（２）競争力のある園芸作物生産技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
21 ナシ病障害の発生要因解明と技術対策	21世紀型 (現場課題)	園研	R6-8	園研	2,983	令和2年に初確認し、被害が顕在化しつつあるナシ花腐細菌病の発病要因の解明と発病抑制技術の開発を行う。また、西洋なし「ル・レク・チエ」の生理障害(ブラックエンド)の発生抑制技術を構築する。
22 にいがた産えだまめのリレー出荷に向けた中晩生品種の技術開発	21世紀型 (現場課題)	園研	R6-8	園研 中山	1,052 355	オール新潟品種一貫生産体制を構築するため、新たに育成した中晩生系統えだまめについて、平地と準高冷地における最適な栽培方法や各種推定法を構築し、円滑な普及に資する。
23 野菜生産の拡大と安定化に向けた農業イノベーションフロンティアの開拓	経常	園研	R6-8	園研	1,407	稲作経営体の複合営農を支援するため、既存技術の簡素化・効率化、新たな品目・作型等の導入、大規模生産に対応した機械化・マニュアル化等に向けた技術開発を行う。
24 果樹産地活性化と新潟産果実のブランド力強化に向けた革新的技術及び新品種の開発	経常	園研	R6-8	園研	807	高齢化等による果樹産地の衰退に歯止めをかけるとともに複合経営による経営安定を実現するため、果実の品質向上・安定生産技術や新たな栽培方式の開発、及び新品目・新品種の選定を行う。
25 花き経営の持続的発展等を支援する生産・流通技術の開発	経常	園研	R6-8	園研	1,129	花き産地強化のため、高品質安定生産技術や低コスト・省エネ栽培技術、品質保持に向けた出荷・流通技術等の開発、及び園芸導入のための品目・品種選定や栽培技術の開発を行う。
26 高温耐性トマト品種等の普及促進のための投入エネルギー削減と生産性を両立する技術の開発	外部 (その他)	園研	R6-8	園研	5,500	農研機構が策定する高温障害発生回避のための温度管理法を新品種に適用し、日中のヒートポンプ冷房に係る投入電力量削減と夏期収量の増加を両立する栽培管理技術体系を開発する。

（３）高品質畜産物の生産性向上及びコスト低減技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
27 効率的体外胚生産及び新規凍結法の開発	21世紀型 (施策支援)	畜研	R8-11	畜研	790	体内胚と同等の子牛出生率を確保できる体外胚の作出方法の検討と胚保存の技術開発を行う。
28 一般的な市場導入でも出荷月齢を早期化できる「にいがた和牛」の効率的肥育技術	21世紀型 (現場課題)	畜研	R7-10	畜研	13,502	市場から素牛を導入する和牛肥育経営において、従来の30か月齢から4か月早い26か月齢で出荷可能な飼料給与技術を開発する。
29 酪農・肉用牛の効率的生産に向けた基盤技術開発	経常	畜研	R8-10	畜研	1,427	酪農、肉用牛の肥育技術や繁殖効率を改善するための基礎技術の開発を行う。
30 飼料資源の高度利用及び畜産環境改善に関する研究	経常	畜研	R6-8	畜研	1,011	良質な自給飼料等の生産及び利用拡大技術を開発する。また、畜産環境問題解決に向けた技術開発を行う。

（４）地域の特徴を活かした栽培技術の開発

課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
31 中山間地域の地域資源を活用した園芸作物等の生産技術の開発	経常	中山	R7-9	中山	1,179	中山間地域における農作業の軽労化・効率化、新たな技術による農作物の高品質安定生産、特産品の生産方法確立等に役立つ技術を開発する。
32 佐渡のブランド産地及び水田を活用した園芸生産技術開発(案)	経常	佐渡	R8-10	佐渡	1,372	佐渡地域が推進する園芸品目及び新作型について栽培技術を検討する。かきの生産性及び品質向上や担い手確保につながる技術を開発する。
33 地域資源を活用した山菜の高品質・安定生産技術の開発	21世紀型 (現場課題)	中山	R8-	中山	1,002	地域資源を有効に活用しながら、山菜の高品質化と安定供給を実現できる栽培技術を開発する。

（５）食品産業の振興のための技術開発

	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
34	新時代の食を先導する新規穀類加工技術の開発	経常	食研	R8-10	食研	1,178	県内食品産業の振興を目指し、穀類の高付加価値化と用途拡大につながる加工技術を開発する。
35	園芸品目の用途拡大に向けた流通・加工技術の開発	経常	食研	R6-8	食研	1,331	園芸品目の用途拡大のため、県産農産物の長期貯蔵、乳酸菌の新しい用途開発、大豆加工品等の加温処理による高品質化および特徴ある大豆を用いた差別化に向けた基盤技術を開発する。
36	地域資源を活かした健康寿命延伸につながる食品素材の開発	経常	食研	R6-8	食研	588	農産物の機能性成分等の特性を活かし、健康寿命延伸への寄与が期待される商品開発に向けて新たなプラントベース食品素材を創出する。
37	水産練り製品の持続的な利用につながる加工技術開発	経常	食研	R5-7	食研	200	セルロースナノファイバーをはじめとする新規素材をすり身に添加することにより、水産練り製品に新たな価値を付与でき製造技術を開発する。
1	フードテック価値創出プロジェクト	強化P	食研	R8-10	食研	50,210	1を参照

4 持続可能な農業・食品産業の構築に向けた産学官連携による革新的な研究開発

（１）カーボンニュートラルの実現に貢献する技術の開発

	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
38	Jクレジット活用に向けた技術開発	事業 (農総)	作研	R8	作研	1,850	中干し延長が食味・品質・雑草発生に与える影響について、延長による弊害の有無と回避技術を検討する。
39	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業における農地管理技術検証	外部 (その他)	基盤	R8	基盤	1,350	水田土壌における稲わら秋すきこみ施工時期の違いが、温室効果ガス削減効果や水稻の収量等に与える影響を明らかにする。
40	グリーンイノベーション(GI)基金事業 イネ籾殻高機能バイオ炭の開発 高機能バイオ炭によるCO2固定効果の実証・評価	外部 (その他)	基盤 作研 園研	R8-9 R8-9 R8-9	基盤 作研 園研	3,121 2,059 5,000	2050年カーボンニュートラル実現に向け、国や他県、民間とともにバイオ炭農法の推進にかかる諸問題の解決に取り組む。新潟県では、水稻、トマト、ブドウ、エダマメの栽培面で課題を担当する。
41	J-クレジット新規方法論等策定推進委託事業	外部 (その他)	基盤	R8	基盤	2,000	水田から発生する温室効果ガス(メタンガス)削減効果が期待されるV溝直について温室効果ガスの削減量や水稻の生育、収量等に与える影響を検証する。
42	畜産からのGHGの排出削減のための技術開発	外部 (委託プロ)	畜研	R4-8	畜研	1,500	メタン産生量を間接的に推定する方法について有効性を実証する。また、本法を用いてメタン削減資材評価法への応用性を評価する。
43	土壌実態調査による土壌管理と土壌炭素量の関係解明(農地管理実態調査)	外部 (その他)	基盤	R6-11	基盤	553	新潟県の農地・草地における土壌中の炭素量や炭素含有量に影響を及ぼす有機物管理の方法など農地管理の実態を調査する。

（２）環境と調和した安全・安心な農畜産物を提供する技術の開発

	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
44	園芸分野における有機農業の実践を容易にする栽培技術の開発	21世紀型 (施策支援)	園研	R7-9	園研 中山 佐渡	304 238 238	有機農業の取組拡大に向けて、生産の安定や省力化につながる技術を開発するとともに、有機栽培への適応性が高い品目を探索し、評価する。
45	線形計画法を用いた新規品目・新技術の最適導入条件の解明	経常	企画	R8-10	企画	240	水稻を中心としたモデル経営体を対象に、線形計画法を用いて園芸品目やスマート農機などの最適導入条件を明らかにする。
46	持続可能な農業生産のための基盤技術開発	経常	基盤	R6-8	基盤	576	作物生育とほ場状態のモニタリングシステム、及び水稻収量・品質予測モデルを開発する。また、県内水田土壌の可給態硫黄の実態を把握し、籾殻および籾殻くん炭からのケイ酸供給能を評価する。
47	土壌機能を活用した環境保全型農業技術の開発	経常	基盤	R7-9	基盤	577	持続可能な農業生産を行うため、土壌の持つ様々な機能を活かし、化学肥料及び化学合成農薬の低減に向けた新たな栽培技術を開発する。
48	総合防除を推進する病害虫管理技術の開発	経常	作研	R7-9	作研	800	水稻及び大豆の病害虫に対する品種特性や、主要病害虫の発生動態・薬剤感受性等を把握することにより、効果的・効率的で環境にも配慮した病害虫防除技術を開発する。
49	持続可能な食料システムを支える園芸作物の環境制御技術の開発	経常	園研	R6-8	園研	1,784	難防除・新規侵入病害虫の防除対策技術、生理障害や施設環境の制御技術、及び省エネ技術などの基礎的データを収集し、新技術開発を目指す。
50	省力的なIPMを実現する病害虫予報技術の開発	外部 (委託プロ)	作研	R4-8	作研	1,800	・葉面の結露データやいもち病の発生量データを収集・解析するとともに、いもち病の発生リスクを予測するモデルの適合性を検討する。 ・気象要因と紋枯病の病勢進展の関連を解析するとともに、紋枯病予測モデルの適合性の向上と検証を行う。
51	土壌微生物叢アトラスに基づいた環境制御による循環型協生農業プラットフォーム構築	外部 (その他)	作研	R5-11	作研	630	植物－微生物－土壌環境の関連性について「マルチオミクス解析」で評価するためのデータを収集し、因果関係を解明する。
52	サイバーフィジカルシステムを利用した作物強靱化による食料リスクゼロの実現	外部 (その他)	基盤	R8-11	基盤	1,150	養水分欠乏などの劣悪環境でも栽培可能な水稻系統を開発するため、低栄養耐性を示す系統を低栄養条件下で栽培し、生育量と収量性を評価する。
53	”コメどころ”新潟地域共創による資源完全循環型バイオコミュニティ拠点	外部 (その他)	基盤	R4-13	基盤	2,500	安定的においしい農作物を作るために必要な土壌環境の分析や、その土壌環境を実現・持続していくために農家が使用できる微生物堆肥を開発し、簡便に導入できる有機農業技術を確立する。
54	国内肥料資源利用拡大対策における地力調査	外部 (その他)	基盤	R6-9	基盤	1,731	地力増進に資する国内資源由来肥料の活用が期待されるエリアを利用ポテンシャルマップにまとめ、これに応じて国内資源由来肥料の効率的かつ効果的な利用法を開発する。
55	トリコデルマ属菌資材によるセイウナシ褐色斑点病の発病抑制効果の検証	外部 (その他)	園研	R8	園研	500	トリコデルマ資材を用いて、セイウナシ褐色斑点病菌に対する生育阻害効果及び発病抑制効果を検証する。

（３）ICT、ロボット技術等を活用したスマート農業の実現に向けた技術の開発

	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
56	省力的なIPMを実現する病害虫予報技術の開発	外部 (委託プロ)	作研	R4-8	作研	1,800	3(2)を参照
57	水稻有機栽培における自動抑草ロボットを核とした省力安定多収栽培技術の開発および実証	外部 (その他)	基盤	R7-9	基盤	2,000	自動抑草ロボットを核とした省力安定多収栽培技術の開発及び実証に取り組み、除草労力を8割削減する除草体系の構築を目指す。
58	農業における適応策の広域的・包括的施策の評価と提案	外部 (その他)	基盤	R7-9	基盤	390	新潟県下で実施されてきた水稻栽培試験データを地理情報システムで利用可能なデータに集約し、高温への影響を解析する。
59	全国427万haの農地をカバーする肥効予測システム等の開発	外部 (その他)	基盤	R8-13	基盤	1,700	新潟県における土壌調査、レガシーデータの電子化、詳細土壌図の作成、および環境動態モデル構築のための土壌環境モニタリングを実施する。
3	スマート農業システム実装化プロジェクト	強化P	—	R8-10	基盤 バイオ 作研 園研 畜研	2,523 975 2,940 900 1,350	1を参照

5 中山間地域の維持・発展に資する調査研究

（１）中山間地域の集落機能を維持する仕組みづくりに向けた調査研究

	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
60	中山間地集落の実態と課題解決のための取り組みに関する調査研究	経常	中山	R7-9	中山	1,031	中山間地域集落における営農や集落機能の維持に関する課題を解決するため、集落の実態と解決に向けた取り組みの把握、スマート農業機器の体系的利用、鳥獣害対策などの課題に取り組む。

独創的シーズ発掘研究

	課題名	予算区分	主査 部署	研究期 間	担当 部署	事業費 (千円)	目的
61	視覚言語モデル型AIを用いた家畜行動の言語化とその応用に関する検討	経常 (所長枠)	畜研	R8	畜研	250	市販の視覚言語モデルを用いて、家畜行動の言語化と実作業への応用について知見を蓄積する。
62	豪雪地帯における耐雪型恒久電気柵の現地適応性及び活用上の課題の把握	経常 (所長枠)	中山	R8	中山	250	耐雪型恒久電気柵(倒伏式フェンシングワイヤー柵)を通年設置し、被害防止効果及びコスト等の現地適応性を評価する。

【予算区分について】

- ・強化Pは新潟県農林水産業試験研究強化プランに関するプロジェクト
- ・21世紀型は、県単の21世紀型農業新技術開発事業。()は、同事業の行政施策支援技術開発における関係課。
- ・外部は、農林水産省等の研究費を受けて実施するもの。()の内容は次のとおり。

イノベ:イノベーション創出強化研究推進事業(農水省)

委託プロ:みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち「農林水産研究の推進」(委託プロジェクト研究)(農水省)

その他:上記2事業以外の外部資金事業